

新聞に興味関心をもって関わり、主体的に新聞活用する子ども

実践校第2年次

塩尻市立洗馬小学校

村上 恵

1 本校のNIEの現状

昨年度は、NIE 実践校第1年次で社会の研究グループの中で1回の研究授業を行ったのみであったが、今年度は NIE の重点研究グループとして4月から教科の枠を越えて新聞を活用した授業はどうあったらよいかを模索しながら、進めることができた。

今年度も児童が新聞にどのように関わっているのか、昨年度の実践の成果が子ども新聞への関わりに影響を与えたのかを把握するために3年生以上でアンケートを実施した。その結果、ほとんどの家庭でなんらかの新聞を購読していて、子どもたちが目を通す記事は、テレビ欄や4コマ漫画、スポーツ面、地域のニュースなどが多く、昨年度のアンケートより、「毎日読む」「時々読む」の割合が少し高くなった。新聞を読まない理由としては、3,4年生では「難しい」「漢字が読めない」などが多いが、5,6年になると、「興味がない」という回答が多かった。また昨年度、興味をもった新聞記事のスクラップをしたり新聞記事を活用した社会の授業を行った5年生は、「前よりも新聞を読むようになった。」という児童が60%以上になった。そして子どもによって差はあるが、「身近なこと、地域のことを知ることができた。」「テレビのニュースを見ないでも、事件や出来事が分かる。」など新聞を読むことの良さの一面に気づくことができています。しかし、教師側の内情はNIEの研究グループのメンバーも主任を始め、ほとんど入れ替わって4月当初、どこから手をつけたらよいかかわらず、日々の授業でも教科書の内容を指導することで精一杯であり、自分自身が新聞を隅々まで、読んで授業に使える記事を選ぶ余裕がないというのが現状だった。

今年度も5,6月と10月,11月の2期に配達される新聞を自由に読めるように NIE コーナーを作り、自由に閲覧できるように工夫したり、家庭で新聞記事スクラップしたりして新聞に興味をもつようにする事にした。並行して研究会では、いろいろな学年のいろいろな教科でどのように新聞を活用した授業が行えるか検討を重ね、係内でできるだけ多くの授業を行っていくことにした。そして、7月にはNIE事務局の方々を指導者にお迎えして3年と5年の研究授業を行った。

2学期は研究授業を行った2クラスの保護者を対象にアンケートを行ってみた。その結果、3年生では「以前より新聞を読むことが多くなったか」に対して「多くなった」と「変わらない」が70%、5年生では「多くなった」が30%と3年生(18%)より多くなって合わせた数は70%になっている。また「新聞記事について家族と話すことがあるか」については3年生が60%、5年生が70%となっていてスクラップをしているうちに段々に記事の内容まで興味をもって読んで家庭で会話したり、質問したりするようになっていくことがわかる。('政治の話はよくします。')('以前より新聞を読んで逆に教えてくれることがあります。'):5年保護者アンケートより)

「新聞を通して興味や視野が広がっていると思うか」という質問に対しては3年生も5年生も多くの保護者が「広がっている」と感じており「家族や友だちと社会のことを話し合えるようになった」「自分の好きなことに対してさらに詳しく調べるようになった」という点で新聞利用に対する成果を保護者も感じているようだ。

2 NIEで高めたい力

本校では、子ども達が将来的に「新聞」に対して親しみをもち、自分なりの視野を広めるためのアイテム、情報収集の手段として新聞を活用してほしいと考えている。そのためには、小学生のできる範囲で社会的事象に関心をもち、視野を広めてほしいと考える。

高めたい力

- ・社会的事象について興味関心をもつ
- ・社会的事象に対して、自分なりの考え方をもち、それを伝えあう表現力
- ・友達や教師から得た情報を基に、自分なりに調べる力

3 研究の概要

(1) 実践した教科 社会科 国語科 総合的な学習の時間

(2) 新聞の提供状況

6月、7月と10月~11月の4カ月間(通年購読の信濃毎日新聞、市民タイムス、毎日子ども新聞も利用)

(3) 新聞を取り入れた授業の実践(1年、3年、5年、6年、自・情障学級で実践)

1年国語 単元名「ことばのリズムをたのしもう」

3年国語 単元名「話し名人、聴き名人になろう」「考え名人、想像名人になろう」

5年社会 単元名「人と自然に優しい製品をめざして~これからの自動車産業~」

「人と自然がともに生きる国土~環境新聞にしてみよう~」

5 年理科 単元名「天気の変化」
 6 年国語 単元名「自分の考えを発信しよう」
 6 年理科 単元名「人と自然」
 自・情障学級 S S T の学習 主題「相手の気持ちに立って考える S S T」

4 5 年社会科の授業（研究授業）の実践から

(1) 単元名 人と自然がともに生きる国土「環境新聞にしてみよう」 21 時間扱い

(2) 単元設定の理由

子どもたちは、工業の学習でエコカーについて学習を深め、環境との関わりに目が向いてきている。国語でも、資料「ごみ問題ってなあに」を読む中で、家のゴミや生き物について調べた子どももいる。情報が結ぶ社会では、信濃毎日新聞本社や S B C 信越放送局を見学し、新聞が届いたりニュース番組ができたりするまでのことを学習し、新聞スクラップ作りを通して新聞との関わりを一層もち、新聞からの情報を多く取り入れるようになってきている。

このような子どもたちは、新聞記事をもとにしてこのところの地球環境への懸念や地球温暖化に伴う CO₂ 削減問題について考えていくことで、身近な自然に目を向けながら現状と問題点に気付いていくだろう。また、自然環境が自分たちの生活や生活環境と密接に関連していることの理解が新聞にまとめることで一層深まると考えている。

新聞から必要な情報を取捨選択しながら、これから人と自然がともに生きるためにどう考えていけばいいのか、どんな取り組みができるかを考えてほしいと考え、本単元を設定した。

(3) 単元目標

工業生産に伴って発生した公害や環境破壊について調べ、環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることに気づき、健康で安全な生活を営むために環境対策が非常に重要であることを理解する。また、国土や環境の保全のために森林資源が大切であることを理解する。

(4) 単元展開

「学習問題」・学習活動（学習内容）	教師の指導・支援	時
1 環境破壊を知ろう * 新聞記事を集め始める。 「知っているよ、この動・植物」 ・絶滅危惧種であることを知り、環境と結びつけて考える。	身の回りの環境がどうなっているのか調べ、関心が持てるように映像で見ていくようにする。	6
「水俣病ってなんだろう、調べてみよう」 ・資料から被害や経緯の様子を調べて、知る。	原因や経緯を読み取れるよう、資料を用意する。	
「水俣病患者の苦しみや願いは何だろう」 ・語り部の話から考える。	水俣病資料館のホームページを参考にしていく。	
「水俣市はどんな取り組みをしているんだろう」 ・住みよい町づくりの様子を調べる。	環境マイスターの方の話を参考にしていく。	
「自動車の排気ガスと大気汚染の関わりはどうなっているんだろう」 ・公害につながっていることを知り、どんな取り組みがされているのか考える。	人にどんな影響を与えているか、どうしていったらいいのか考える場を持つ。	
「身の回りにはどんな環境問題があるだろうか」 ・身近な環境問題を調べ、取り組みを知る。	環境を守るために、どんな取り組みがされているか新聞等を活用していくようにする。	
○ 環境問題について新聞にまとめていこう 「集めた新聞スクラップから気づくことは何だろう」 ・気づいたこと、感じたことを書く。 ・そういう取り組みは何のためにやるのか、何が原因でそうなったのか各自考える。	気づいたこと、感じていることを中心に書いていくようにする。 ・問題の原因は何か、何のために取り組んでいるのか考える場をもつ。	2
「環境を守るために何をしていたらいいんだろう」 ・自分が感じたこと、思っていることを出す。 ・新聞記事をもう一度見てみる。 ・自分たちにできることについて考える。	関連し合っていることに気づくようにする。 生活 / 産業 / 環境 / 環境対策	1 本時
「まとめて新聞にしていこう」 ・レイアウトを考える。 ・必要な写真や図を集めたり選んだりする。	関心のあることの内容（問題なこと、現状）自分の考えをレイアウトする。 新聞コンクール作品を参考にしていく。	4

・レイアウトに沿って書いたり貼ったりする。 ・ネットやアンケート調査、聞き取り調査等で取材	(見出しや資料、絵図など) 取材を取り入れる。	
「できた新聞を読み合おう」 ・関心あることと結びつけて自分の見方・考えを深めていく。	読み合って思ったことや考えたことを話し合い、自分の考えを深め、修正補足していく。	2
2 命をささえる森林 「美ヶ原高原や高ボッチの動・植物を知ろう」 ・どんな動植物がいるか調べる。	身近な山にはどんな自然が残されているか知り、山の働きについて調べるようにしていく。	6
「森林のすばらしさって何だろう」 ・水を蓄える働きや、豊かな自然について調べる。	森林を守り育てる大切さに気づくようにしていく。	
「森を作り育てるのはだれ」 ・林業について調べる。 ・県林業センターは何しているのか調べる。	林業が、木材を作り出し、自然を守っていることに気づくようにしていく。 問題にも気づかせる。	
「森林はどのような働きをしているんだろう」 ・森林のもつさまざまな働きを調べる。	森林はさまざまな働きがあることに気づくようにしていく。	
「森林や自然にどんな問題が起きているのだろう」 ・国土保全等の問題について調べる。	新聞記事を使い、自然災害防止と結びつけて考えていくようにする。	
「国土を保全していくには、どのようにすればよいのだろう」 ・長野県森林づくり県民税について知る。 ・国土保全のための取り組みを考える。	国民一人一人の協力の必要性に気付くようにしていく。	

(5) 本時案

主眼 環境を守るために何をしていたらいいかを考える場面で、考えを出し合ったり新聞記事を見直したりすることを通して、自分たちの生活と関連づけながら環境対策への自分の考えをもつことができる。

本時の位置 21時間扱いの第9時

前時: 集めた新聞記事をもとに気付いたこと、感じたことを各自書いた。

次時: 環境対策についての自分の考えを、新聞にまとめていく。

指導上の留意点

- ・自分の考えの根拠として新聞記事に戻れるように、各自の新聞記事を用意しておく。

授業記録

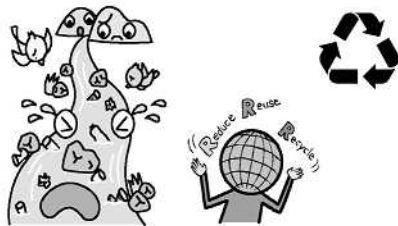
学習活動及び教師の発問	児童の動き	時
1 学習問題を確認し、学習課題を把握する。 「前時は記事の内容や自分の考えたこと、感じたことをかきましたね。振り返ってみましょう。どのようなことを書きましたか。」	A 前年より絶滅危惧種が多くなり、動物が少なくなっているのを救いたい。 D 森林消滅や水質汚染があるので、汚れた水など流さないようにしたい。	4
学習問題 環境を守るために何をしていたらいいんだろう。		6
「ノーマイカー通勤をしていくといいというのはどんな記事があってどう思いましたか。」	W ノーマイカー通勤が始まるという記事。県内各地でノーマイカー通勤、1週間で1日以上はマイカーで通勤しないようにしようということ。 少しでも環境にやさしいようにしていく。 S タンザニアに生息していた動物など新たに絶滅危惧種が増えた。原因は外来種による、生態系の乱れとみられる。森林伐採やダム建設による影響もある。	
学習課題 新聞記事を見直したり考えを出し合ったりして、考えていこう。		
2 新聞記事を読み直して考える。 ・問題や良さに線を引く。 「新聞記事に大事なことが載っている	(線を引いた場所) I 「廃材と生ゴミ、工場動かす」M 「バイオマス広がり」 F 「家族や職場、仲間と一緒にウォームビズ」	

んだね。その記事の取組の良さ、わけ、原因に線を引いて、どうしていくと良さそうか見直してみましょう。」

3 考えを出し合う。

「線を引いたり、読んだりしたことを手がかりにして環境を守るために何をしていたらいいんだろう。発表しましょう。」

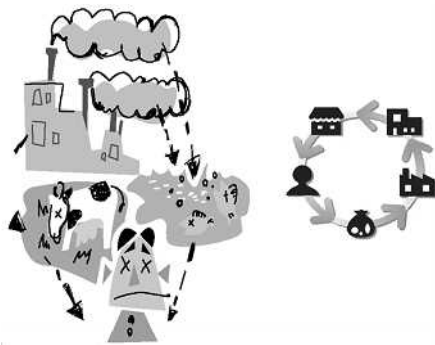
(「過剰捕獲」という言葉について説明)



「環境を守るために何をしていたらいいのかな。」

「多様性ということはどうですか。」

「オオカミがいなくなったらどうなったの？」



「3Rって何ですか。」

「今、出された事が地球にとってはどういう問題のなか、絵図を見てください。」

(絵図により環境問題がどう関連しているか説明)

4 自分の考えを記入する。

「新聞記事からまとめたこの絵図を見て感じたこと、何をしていたらいいのか、学習カードにまとめましょう。」

I「水俣病で和解が成立する」

S「E C Oライフの良さ、わけ、どうなるか」

「センサー付きマットの工夫点」

「エコカー減税、どれくらい減税されるのか」

「生ゴミにミミズを利用する良さ」

W「ノーマイカー」「希少種は今」

「ソーラーカーで環境を学ぶという記事の中の一文」

Kツシマヤマネコが交通事故で死んだりしているを書いてあったが、ゴミを食べて死んでしまったりするので、山に落ちていたら拾う。

Sさっきの外来種の持ち込み、森林伐採やブラックバス、ダムの建設、過剰捕獲、温室効果ガスはそういうことが原因だから、木などを伐採しないでほしい。

M絶滅危惧種のトラやゾウのことを初めて知った。密猟を防止してトラやゾウをあまり捕らないでほしい。

D森林の消失、水質汚染の記事があった。工場の污水など流しちゃいけないと思う。

D川の浄化活動をしていったら魚が戻ってきたという記事があった。

R生物多様性を守る努力をするということが大事。

W昔、人がシカをたくさん殺したのでシカを餌にしていたオオカミが、羊を襲うようになったということがある。

Dシカが増えすぎている。

M三菱化学でエンジンのアイドリングを減らしたり、太陽光発電でCO₂排出を減らせるとしている。

I中国でゴミ処理場から出る污水が飲料水に混じっていて、それを飲んで病気になったという。

Fノーマイカー通勤を5千世帯が行ってCO₂を減らそうとしている。

M森林整備をして、30ヘクタールに植樹している。木を伐採するのではなく、育てればいい。

M家庭や飲食店から出されたゴミを田んぼや畑の肥料にしてい、そこで育った野菜をまた食べる。

Mバイオマス

Uゴミはちゃんと捨てて、大切な物はしまっておいていく。

Rリユース、リサイクル、リフォームの頭文字をとったもの。

児童の学習カードより

W「川や道路にゴミを捨てない」と書いて提出。教師にアドバイスされて再度追加記入「生物などがいなくなってしまう」

S「自転車を使う→排気ガスが出ないから。木を増やす→CO₂が出ないから。」

N「今は、森林などがなくなってきていて、生き物の住む場所がなくなっているの、森林を増やした方がいいと思ったし、それだけでCO₂も減らせるので、森林を増やすことはとても良いことだと思う。」

M「『地球温暖化』と騒がれているのに、私たちは行動せずに木を切ったり、動物や植物を守ろうとしていないように思っていたけど、新聞にはいろんな人が地球を守る

7

8

13

7



うとしていること

が載っていて、最近ではゴミも少なくなってきたし、人も動物も暮らしやすい地球になれば、『地球温暖化』も騒がれることが少なくなると思う。」

R「ゴミを再利用したり電気の無駄遣いをしないようにする。工場の排水が魚を、その魚が人を病気にするから水や空気を汚さないようにする。」

終了

児童の動き欄の文頭アルファベットは児童イニシャル

5 N I E（新聞活用）カリキュラムの例（実践事例を通して）

学 習 内 容	
学習指導要領との関連	1 年生・2 年生 A 新聞に関心をもつ。
<国語 1 年> A 話すこと・聞くこと ア事物の説明や経験の報告をしたりそれらを聞いて感想を述べたりすること。 B 書くこと ア想像したことなどを文章に書くこと。 エ紹介したことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。	<国語 1 年> 単元名「ことばのりずむをたのしもう」 内容 ・新聞から気に入った写真をみつけ、写真から思いつく言葉や文を「5・7・5」というリズムで書き表し、発表しあった。「5・7・5」という言葉のリズムで伝えようというねらいにより子どもたちは一生懸命、言葉を選ぼうとしていた。 『おまもりだ だるまがいっぱいかわいいよ』 ↑ 『やねのゆき つららになって ぶらさがる』
学習指導要領との関連 <国語 3 年> A 話すこと・聞くこと ア出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 ウ図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。 B 書くこと ウ収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 C 読むこと ア物語や詩を読み、感想を述べあうこと。 ウ記録や報告の文章を読んでまとめたものを読みあうこと。 信濃毎日新聞掲載「絹の来た道」より	3 年生・4 年生 B 新聞活用の基礎を身につける。 <国語 3 年> 単元名「話し名人、聴き名人になろう」 内容 ・小学生新聞をスクラップしてきてその中から、自分でおもしろそうだなあと思ったことや大事な記事だなあと思ったことを朝の会で発表してきた。その時、うまく内容をまとめてあっても、声が小さいなど発表の仕方が悪くて記事のおもしろさや良さを友だちに分かってもらえないことがわかった。そこでお話し名人になるためのポイントを「かきくけこま」のわかりやすい言葉にまとめ、子どもたちがそれを意識して発表したり、聴いたりできるようにしてみた。「お話し名人」になることを目標としたことで、子どもたちは内容が詳しくわからなくても新聞記事に興味をもち、関わっていくことができた。北朝鮮などの記事を選んだ子もいて3年生なりに社会とつながっているということがわかった。 単元名「考え名人、想像名人になろう」 内容 ・総合的な学習で取り組んできた蚕の学習で、養蚕を体験したり岡谷の蚕糸博物館を見学したり養蚕に関わった祖父母の暮らしに関心を





もつようになってきた中で、信濃毎日新聞に掲載された「絹の来た道」～を読む学習を行った。専門用語も多かったが、子どもたちは蚕の卵の写真や緑の繭の記事などを、大変興味をもって読むことができた。

本時では「絹が来た道」を書いた記者さんからお話を聞いて記者さんがその特集で何を伝えたかったのか話し合う中で、自分たちが取り組んできたお蚕様の学習を振り返りながら自分で考えたり想像したりしたことを発表し合った。

<社会3, 4年>

(4) 地域社会における災害および事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ関係の諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていること。

学習指導要領との関連

<社会4年> 単元名「交通事故からみんなを守れ」

内容

・社会見学などで警察署や関係機関の働きや協力の仕組みを学習してきた子どもたちが新聞記事から探し出してきた警察官の仕事を発表しあう中で、警察官が私たちの生活を守るためにどんな仕事をしているか気づくことができた。子どもたちは交通事故の処理や逮捕、捜査などの仕事についてはよく知っているが、警察官が事件や事故を未然に防ぐ取り組みをしていることにも気づくことができた。

ある程度の期間をスクラップすると、<調査・捜査> <逮捕> <訓練> <事件・事故防止> など様々な警察官の仕事についての記事を集めることができた。

5年生・6年生

C 新聞の特性を知り新聞から得た情報を学習に活用する。

<社会5年>

(1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。

ウ公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

エ国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ウ工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きなど

4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

ア放送、新聞などの産業と国民生活との関わり

イ情報化した社会の様子と国民生活との関わり

<社会5年>

単元名「人と自然に優しい製品をめざして～これからの自動車産業～」

内容

・臨海学習で見学してきた三菱自動車岡崎工場の様子をまとめる中で自動車工業に関心を持つようになった子どもたちが、5月から行ってきた新聞スクラップを自動車工業に関わるものとしていったところ、最近は多くの自動車会社が環境に優しい自動車作りに取り組んでいることに気づいていった。集めた自動車に関する記事の中から「エコカー」に注目し、比較することによって各自動車会社の技術開発の良さや課題に気づくことができた。



単元名「人と自然がともに生きる国土～環境新聞にしてみよう～」

内容

・1学期にエコカーの学習をして更に、環境に関する新聞記事をスクラップしてきた子どもたちは「地球温暖化」「絶滅危惧種」「ゴミ問題」などの環境問題があることに気づいてきた。

また、既に自治体やボランティア、企業などが環境に関する取り組みをいろいろしていることにも気づいてきた。そこでスクラップした新聞記事を基に、最近の地球環境への懸念や地球温暖化に伴うCO2削減問題について考えを出し合っていくことで、身近な自然に目を向けながら環境問題の現状と問題点に気づくことができた。話し合いのあとで個々のテーマに沿って新聞にまとめることで、自然環境が自分たちの

	生活や生活環境と密接に関連していることの理解が、一層深まった。
<理科5年> B 生命・地球 (4) 天気の変化 1日の雲の様子を観測したり映像などの情報を活用したりして、雲の動きなどを調べ天気の変化の仕方についての考えをもつことができるようにする。 イ天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。	<理科5年> 単元名「天気の変化」 内容 ・新聞のお天気欄の切り抜きを連続した1週間分用意し、雲の動きを読み取り、天気の変化を知った。 子どもたちは、気象衛星の何枚もの写真を見て、雲の動きから天気に移り変わっていく様子を把握し、更にそれ以後の天気の予想もすることができた。更に、天気予報が、今までの天気の変化から科学的に出されていることも知ることができた。
<国語6年> A 話すこと・聞くこと ア資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 B 書くこと イ自分の課題について調べ、意見を叙述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 C 読むこと イ自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ウ編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。	<国語6年> 単元名「自分の考えを発信しよう」 内容 ・「平和のとりでを築く」で広島への原爆投下について学習し平和の大切さを感じ取ることができた。更に平和や戦争について自分の課題をもって、いろいろな資料を調べて、「平和」ということについての自分たちの考えを発信するために意見文を書き、発表しあった。新聞記事から資料を得た子どもたちは、パキスタンの現状について調べ、地球上にはまだまだ、悲惨な生活を送っている人たちがたくさんいることを学んだ。現在の自分たちの生活と比べられるという点で、新聞記事からの資料は有効だった。 『今、パキスタンでは軍の戦争の影響で、ほとんど毎日のようにテロが起きていて、関係のない100人以上の方が亡くなっている。唯一、生き残った人も自分の家から、避難しなければいけない生活を送っている。早く元の生活にもどって、安心して暮らせるようにしてほしい。』
<理科6年> B 生命・地球 (3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境との関わりについての考えをもつことができるようにする。 ア生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。	<理科6年> 単元名「人と自然」 内容 ・人は自然と関わり合いながら生きている。近年様々な自然が人により破壊されたり、汚されたりしている。この単元では、社会問題(政治的な問題)に絡ませつつ、具体的にどんな環境に関する問題が生じ、どのような対策とっているのかを新聞の切り抜きから読み取り、自分自身はどうしていったらよいのかを考えた。
<特別支援教育SST高学年> 	<おおぞら学級5年> 主題「相手の気持ちに立って考えるSST」 内容 ・ソーシャルスキルとは、社会生活や対人関係を営んでいくために必要とされる技能であり、それを具体的に「やり方」「コツ」として教えることで、子どもたちの生活をより豊かになるように支援するのがSSTである。おおぞらに来る子の中には発達障害の診断を受けている子も多いが、行動や社会性の問題をもちやすく、状況や他者の理解が難しかったりする場合が多い。 週に1回、行っているSSTで新聞の4コママンガを使ったSSTを行って みた。信毎の「あんずちゃん」読売の「ちびまるこちゃん」などのマンガを使って、4つのコマの順番をまず考えて、吹き出しのセリフを書き入れることによってストーリーや登場人物の気持ちを考える活動を行った。

6 成果と課題

「今日性」を入れていくことが大事な教科（社会科）での新聞活用の有用性

- 自動車工業にしても環境問題にしても、学習している内容が現在の情勢を扱えることで、子ども達も日々の社会情勢にアンテナを立てて情報を収集することができた。教科書にない新鮮な話題を取り入れられる新聞に目を向けながら子ども達の社会への関心を促すことができた。（５年）
- 環境問題といってもさまざまな分野があり、たくさんの記事をスクラップすることができた。子ども達の関心がある分野はそれぞれ違うが、関心のあることを窓口にして集めてきた新聞記事を通し、みんなでお互いの記事を見合ったりその記事から思ったことや考えたことを出し合ったりしてきた。このことで環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることに気づき、環境対策に目を向けることができた。（５年）
- １学期に自動車工業を学習したとき、新聞記事や新聞広告を扱ってきたことで、自動車工場の取り組みを理解するだけでなく、その後も各自動車工場の製品に関心をもって新聞記事を収集する姿が見られるようになった。また、環境新聞にまとめるときにエコカーを取り上げている子どもも見られた。タイムリーな新聞記事を扱って学習したことがその後の学習に生かされた。（５年）

教科のねらいを大事にした新聞活用、新聞活用は教科のねらい達成のための手段

- 朝の会での毎日のスクラップ発表活動を通して、大切なことを落とさないで話せるようになってきた。（３年）
- 友だちの話し方の良い面（声が大きい、はっきりしている、言いたいことがわかりやすいなど）を指摘しあいながら、お互い気をつけようとしてきた。（３年）
- １学期の工業の学習では、エコカー（値段、アイドリングストップ車など）を扱っていて指導要領の目標である「工業生産が国民生活を支える、重要な役割をになう」という点にふれており、「電気自動車が本当に今後、中心となれるのではないか。」という話し合いでは＜思考力・判断力＞を養うことができる。（５年）

新聞スクラップの継続が新聞に自ら関わろうとする態度を育てる

- 環境に関する新聞記事を集めたり環境以外でも関心のある記事を継続してスクラップする姿が見られるようになってきた。また、学習している内容にかかわらず、興味関心のある新聞を切り抜くなどして生活の中に取り入れたり位置づけたりする姿が見られるようになってきた。（５年）
- 記事の発表から、子どもたちの視野が広まってきた。話題が広がった。（３年）
- 心がハッピーになった記事を扱う機会を設けた。子ども達に、新聞記事には事件や問題だけでなく、幸せに感じさせてくれる記事もあるということに気付かせることができた。担任にとっては、どんな新聞記事に関心をもって読んでいるかを知る機会にもなった。（５年）

読み方を工夫することで難しい言葉も乗り越えられる

- 新聞記事を切り抜くときに読むだけではなく、集めた新聞記事をもう一度見直して何が書いてあるかを簡潔に言えるようにしたり、読み直して大事だと思う箇所にサイドラインを引いたりすることで、その記事に書かれた環境対策の良さや環境問題の原因に気付いたり理解したりすることにつながった。（５年）
- 難しい言葉が出てきても、授業でかみ砕いて説明したり関連づけたりすることで、子ども達は知らなかった事や言葉を次第に理解することができた。また、そうしていくことが必要ではないかと思う。（５年）
- 記事をスクラップする時、キーワードを拾って自分の言葉で書いていくので、何を言いたいのかを短い言葉でまとめられるようになってきた。キーワードや見出しに着目することで内容もつかむことができた。（３年）

課題

- １つの目的・ねらいに基づいて新聞記事を取り入れてくることは効果的である。逆に新聞にまとめて伝えようとするにはさまざまな能力が必要になってくる。見出しや自分の考え、取材などの新聞作りの仕方も学んでいく必要を感じた。（５年）
- 子ども達が常時新聞から学べるような学習環境が大事である。家庭で新聞をとっていない場合もある。校内に新聞を自由に閲覧できる場所と数社の新聞がほしい。今年度、図書館に新聞を備えているかどうかのアンケートがきたが、今までは何もなかったことがわかった。１２月から、朝日こども新聞と毎日こども新聞を置いてもらえるようになったが、他紙も是非予算化してほしい。
- 必要なときに過去のデータ（新聞記事）を活用できるように「信濃毎日新聞統合データベース」のような学習教材を取り入れられる環境があると、もっと教材として新聞を活用できるので、データベースを利用できる予算をつけてもらえるとありがたい。